



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 181 April. 1. 2025

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



第19回東海岳人写真展より 詳細は本文P5参照

目次

| | | | | | |
|------------------|-------|----|--------------|-----------|----|
| ○令和7年新年会開催 | 今津英一朗 | 2 | ○委員会報告 | 稲葉真英 | 16 |
| ○第19回東海岳人写真展報告 | 岩月邦文 | 5 | 山行/ボランティア | 前田隆久 | |
| ○トレッキングクラブ報告 | 川崎禎明 | 7 | ○同好会コーナー | スケッチ/TNCC | 18 |
| ○第8期登山学校報告 | 服田康宏 | 8 | ○支部友コーナー | 田中 進 | 19 |
| ○名作の舞台を訪ねて(3)(4) | 村中征也 | 9 | ○会務報告 | 今津英一朗 | 21 |
| ○インド・ヒマラヤの日時計 | 沖 允人 | 12 | ○ルーム日誌・会員異動 | 今津英一朗 | 23 |
| ○登山用具あれこれ⑮ | 千葉泰丈 | 13 | ○INFORMATION | 星 一男 | 23 |
| ○東海岳人列伝⑳ | 西山秀夫 | 14 | ○編集後記 | | |

令和7年新年会開催

総務委員長 今津 英一郎

2025年1月19日(日)午後1時間半から名古屋駅三交不動産ビル 2階 貸し会議室(ツドイコ)にて東海支部の令和7年新年会が開催された。報告会・講演会には約50名、懇親会には約40名の参加があった。

第1部では支部長あいさつに続き、インド・ヒマラヤ登山隊の登頂報告会の後、記念講演として、日本山岳会本部理事でミニヤコンカ奇跡の生還者である松田宏也氏の講演会が行われた。

インド・ヒマラヤ登山隊の報告は、総隊長である沖 允人氏から、ラダック山脈の山域説明と登山許可が2021年から3年越しに得られた旨の説明があった。

星隊長からは、14次隊と15次隊の遠征過程の概要説明の後に、動画を使った説明を行った。

第14次隊は、2021年にもMerak峰の登山申請を行った。しかし許可が下りず、第三希望としていたラダック山脈のカン・ユーセイ山群のKang Yisay III (6401m) と周辺の無名峰に登山許可を申請し、急遽登山許可書を発行してもらい、Shaldor Ri (シャドール・リ、5942m)初登頂、Dzo Jongo (ドゾ・ジョンゴ、6211m)東峰第2登を果たす。

15次隊では、2023年に、沖総隊長のMerak峰(6481m)偵察によるルート案を見定め、2024年にIMFに再度登山申請し、インド渡航前に許可を得ることができた。14次隊から得た登山ルート情報や高所順応の方法が有効に働き、念願の初登頂を果たす。

報告の動画には、登攀以外にインド人スタッフとの交流や、インド軍の軍事演習の場に囲まれたベースキャンプの様相。そして急速に発展するインドの町マナリーやレーなどの動画もあり、海外遠征ならではの報告となった。



インド・ヒマラヤ登山隊の報告



松田宏也氏の講演

第2部は、会場を“マメゾン”に移し、楽しい懇親の場を持った。



左から服田副支部長、恒成中部経済新聞社社長、松田氏、高橋支部長



懇親会の様子

松田宏也氏の講演要旨

松田宏也さんの記念講演では、生々しい映像、当時の騒動をわかりやすくご説明いただいた。いずれも感銘を受ける内容であった。

演題は、「生きて還ってまた登る」である。松田さんのスピーチは画像と動画を交えて解説された。想像以上の奇跡的な生還だったと言える。それだけじゃない、両手の指、両足の膝下を失っても尚も登山を続けて来た不屈の精神に出席者は魅了されたのである。

遭難事故の詳細は『ミニヤコンカ奇跡の生還(2010年ヤマケイ文庫)』の通りである。キャッチコピーには「神よ、晴れてくれ！ そんな願いもむなしく、山頂を目前に悲劇の幕は切って落とされた。

1982年中国四川省ミニヤコンカ峰(7,556m)の頂上目前にして天候が急変し行方不明となる。極度の飢え、思うように動かさせない凍傷の手足、そして仲間の死……。ズタズタに傷つ

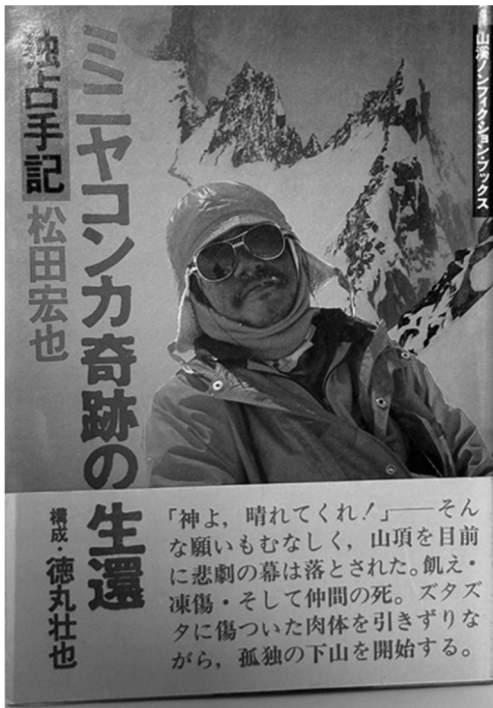
いた肉体を引きずりながら孤独の下山を続け、絶望の峰から生きて帰った。19日後、地元農民に発見され九死に一生を得るが、凍傷により両手指と両足を膝下15cmより切断。1種1級の身体障害者となったが、社会復帰後、会社業務のかたわら義足で登山を再開した。

ミニヤコンカ(7556m)は中国・四川省の山で、遭難を知ったトップは省を挙げて救助と治療に尽くせ、と号令したそう。日本円にして1200万円の治療代がかかったが無償だったという。返し切れない中国への恩に日中がもっと仲良くなれないか、と憂うのもむべなるかなである。

最初に発見してくれた現地人4名のうち1名が文字が読めて、遭難して行方不明の日本人と認識してもらえた。発見された界限は松田宏也の名称を冠した歩道になっているとか。

私見であるが、中国の山へ遠征することは日中友好の証になる。遠征を通じて人間同士のつながりが生まれれば良し。松田氏の今後のご活躍を願って止まない。





近刊は『ヤマケイ文庫 足よ手よ、僕はまた登る『ミニヤコンカ奇跡の生還』からの再起 (2022/6/16)』がある。左に著書の紹介をしておこう。

プロフィール

1955年大分県佐伯市に生まれる。1978年同志社大学経済学部卒業在学中より登山を始め、アラスカ・ヘイズ峰(4,150m)遠征。

1982年中国四川省ミニヤコンカ峰(7,556m)遠征し遭難1983年500日間の闘病生活の後、社会復帰84年:両足義足にて登山活動を再開。

1986年冬の富士山(3,776m)単独登頂88年:冬の北海道知床・斜里岳(1,545m)登頂春夏秋冬、日本各地の山々を登る一方、スキーも始める(当日ビデオで紹介された)。

1995年8~9月チベット・シシヤパンマ峰(希夏邦馬峰8,027m)遠征7,430mのファイナルキャンプまで達す。

2020年日本山岳会創立120周年記念事業のグレートヒマラヤトラバースの1stステージ(東ネパールカンチェンジュンガ山麓)に参加。

TOPICS 1

サンタ・ラマ氏来訪

本年の1月28日の夕刻、前ネパール山岳協会の会長サンタ・ラマさんと元日本スポーツライミング協会会長の神崎忠男さんが支部ルームを訪問。今津副支部長と尾上が対応する。

ラマさんの訪日の目的は、カトマンズで自分の経営する“エベレストコーヒー”の日本への輸出販促である。ラマさんと神崎さんは、国際山岳連盟の活動で昵懇の間柄であることから、一緒に来名したもの。

夕食をラマさんが経営参画している金山のネパール料理店で一緒に食べる。話は、多岐に亘る。世界の登山界の状況、ヒマラヤ登山の実情、日本登山界の現状等々話題は尽きない。

その中でのラマさんの話で気掛かりな点の一つ。それは、日本のヒマラヤ登山隊の少なさと併せて日本人トレッカーの激減のことである。他の国は、コロナ禍前に戻ったが、日本だけが戻っていないようだ。日本からもっとヒマラヤ登山やトレッキングに来て欲しいとの要望を受けた。支部の中からヒマラヤトレッキングの気運でも上がればの思いである。

蛇足である。「兩人(今津、尾上)共ネパール語はサッパリでしょう。英語だって不得意の筈。なのに話題が尽きないって…?」。心配ご無用。ラマさん日本語ペラペラ。(N.O.)



左から今津さん、神崎さん、ラマさん

「第19回東海岳人写真展」開催報告

写真展実行委員長 岩月 邦文

2025年2月25日(火)から3月2日(日)の6日間、名古屋市民ギャラリー栄7階において第19回東海岳人写真展を開催した。

支部会員ら33名による52点の作品展で期間中の来場者は延べ1,112名、前回第18回の1,001名を上回る入場者があり、盛況であった。

今回は「山とつながる よろこび」をキャッチフレーズに応募してもらい、説明文に出展者の山に対する思いや観覧していただく方々に伝えたい思い等を記載した。

来場された方が熱心に観覧していた様子から、「山とつながる よろこび」が伝わったのではないだろうか。

更に第15次インド・ヒマラヤ隊の写真10点を展示したコーナーや猿投の森活動紹介、支部入会案内など東海支部への理解にも役立った写真展であった。



『第15次隊登頂のメラック (Merak) 峰』



『インド・ヒマラヤ隊全メンバー』



2つの展示会場で観覧



県内の登山愛好家らでつくる日本山岳会東海支部主催の「第19回東海岳人写真展」(中日新聞社共催)が、中区栄4の市民ギャラリー栄で開かれている。会員ら約40人が国内外の山を被写体にした写真52点を展示している。3月2日まで。

会場には、大阪府と奈良県の境に位置する大和葛城山で撮影したススキや、三重県の熊野古道馬越峠の石畳、北アルプス・白馬岳の山頂からとらえた朝日などの写真が並ぶ。同支部の登山隊が昨秋にインド・ヒマラヤ山脈を登ったときに撮影した写真もある。

写真展実行委員の坂本孝さん(78)「春日井市」は、長野県松本市の上高地でオレンジ色に紅葉するカラマツ林を撮影した。「山に行けない方も街の中では味わえない自然の景色を満喫していただければ」と来場を呼びかけている。入場無料、午前10時～午後5時。(大島宏一郎)

中日新聞2月28日(金)名古屋市内版

会場入口にはインド・ヒマラヤ隊写真コーナーが有り、隊員4名が日替わりで常駐し説明して来場者に人気であった。

また、中日新聞に掲載されたことで一般の方々が多く来場されたことも来場者が増えた一因となった。

その他情報提供として、共催していただいた中日新聞社からは初日に取材があり、2月28日名古屋市内版に、3月1日近郊版に掲載された。また、山岳月刊誌「岳人」と「山と渓谷」での掲載も行った。

今回の写真展の振り返りからより有意義な写真展を目指し次回につなげていきたい。

表紙写真

『錦の滑床の谷を歩く』

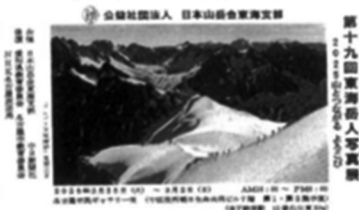
山田明美会員撮影

撮影場所：秋田県森吉山麓赤水溪谷

撮影時期：10月

森吉山の東山麓にある赤水溪谷は一枚岩の滑床が4キロ以上続きます。無数のおう穴や滝を楽しみ、水の中を歩く楽しさは天国の散歩道と呼ばれています。

第19回 東海岳人写真展 「山とつながる よろこび」



会場：名古屋市市民ギャラリー栄
(愛知県名古屋市)
会期：2月25日(火)～3月2日(日)10～17時
休館日：月曜
入場料：無料
◎日本山岳会東海支部写真展実行委員会
岩月邦文
☎090-5451-6855

前回も約1000人が来場するほど毎回大好評の写真展。日本山岳会東海支部のOBを含む会員らが国内外で活動した時に撮影した写真を展示し、山で感動した風景や山への思いを伝える。

「山と渓谷」2025.3月号



出展者全員集合記念写真

トレッキングクラブ定例山行

年末のご褒美、予期せぬ雪山を楽しんで！

トレッキングクラブ 川崎 禎明

トレッキングクラブの定例山行を、12月14日(土)寧比曾岳(1,120.6m)・筈ヶ岳(985.2m)に、メンバー5名で行った。当日は、晴れ時々曇りの天気だったが、前週、寒波が到来し東海地方でも雪が山間部に降り、当然、寧比曾岳・筈ヶ岳も積雪した。秋口の計画時点では年内は降らないであろうと高を括って雪は想定していなかった。そのため、レンタカー(この時期はスタッドレスに交換されていない)を利用していく計画だったので、毎日、天気予報を注視しつつ、路面凍結、山の状況を中心にしながら1週間を過ごした。

前日、メンバーに急遽、冬装備の軽アイゼン、もしくは、チェーンスパイクを忘れないこと、防寒対策の念押しなどの連絡をして当日を迎えた。

当日は、名古屋駅を7時に出発しグリーンロードを抜け足助を経由して目的地、大多賀峠に8時30頃に到着した。到着後、身支度を整え、全員でコース確認をして山行開始となった。

寧比曾岳・筈ヶ岳自体が雪を気軽に楽しめる山のため、雪を期待していた登山者が多く駐車場は、ほぼ満車という状況だ。東海自然歩道ということもあり登山道自体はしっかり整備されている。しかし、朝は今年一番の寒さでもあり、前日、好天だったので足元は若干ゆるんでいた。1時間30分程度歩き頂上の寧比曾岳に到着、360度、晴天の中で景色を堪能し次の目的地の筈ヶ岳へ向かって歩き出した。



寧比曾岳は、雪を求めてきた登山者が多く賑わっていた。寧比曾岳から筈ヶ岳へ向かう冬の桜の咲いていない



寧比曾岳頂上にて

木々のトンネルは霧氷となってキラキラと輝いていた。滑りやすい雪のアップダウンを繰り返しさらに1時間30分ほどで筈ヶ岳に到着、お昼をすませて帰路につき、寧比曾岳に戻っていった。帰り道では、輝いていた霧氷もなくなっていた。寧比曾岳からは富士見峠まで往復し登山口に戻っていった。

今回は、ツボ足ですべての行程を歩いたが、下りは軽アイゼンを使用して転倒リスクを減らすべきだったかと後で改めて思った。下山後の帰りは、百年草にて入浴をして体を温めて帰った。次回も同じ山を計画したくなる雪山だった。

私は、トレッキングクラブに2023年夏に入会してから1年半程経過し、2024年度は定例山行を企画する立場となった。2回目の山行計画だったが、何事もなく楽しい山行を実行することができた。これもトレッキングクラブの皆さんの協力と、企画委員会での山行計画の確認、参加メンバーによる事前ミーティングという行程を得て実行することが安心感と安全につながっていると思う。

興味がある方はお試し山行もありますので、一度参加してみることをお勧めする。想像以上に楽しく、和気あいあいとしたクラブである。騙されたと思って一度顔をだしてみたい。年10回の山行企画がありますのでひとりで山行に行くのが不安な方もどうぞ。

登山学校第8期では雪山を満喫

登山学校運営委員会委員長 服田 康宏

2017年にスタートした登山学校の第8期は、昨年7月6日に受講生24名を迎え開校した。夏場は猛暑と台風に悩まされたが、年が明けてからは寒波の襲来により久しぶりにたっぷりの雪に恵まれた。

1月の現地山行は北ノ山～西ノ山、入道ヶ岳、養老山、赤坂山、2月は藤原岳、虚空蔵山。南沢山・横川山で実施。ラッセルやアイゼン歩行、ツボ足歩行など積雪期ならではの登山を体験することができた。中には雪山初体験という人もいたが、無雪期とはひと味違った山の魅力を感じていただけたと思う。



2月の虚空蔵山【A3クラス】



2月の藤原岳【A2クラス】

受講生からは「晴れた日の雪山は本当に美しい」「同じ山でも季節が変わるとまったく違う」「駐車場から足が埋まるくらいの積雪がありワクワクした」「ツボ足歩行をしっかり練習できた」「雪山はリスクを考慮した準備が必要」「雪山には多くの危険が潜んでいることがわかった」などの感想が寄せられた。

一方でリーダーはじめ指導員のみなさんには、降雪による直前の山域変更や雪道での運転など苦勞をお掛けした。第8期も残すところあとわずかとなった。引き続き安全登山を心がけていきたい。

2025年度(第9期)は、7月に開校にする。4月からは支部員・一般の方に向けてホームページ、メルマガ等で募集を開始する予定だ。興味のある方は事務局までお問合せ下さい。

登山学校事務局

E-mail: jactokaiscala@gmail.com

名作の舞台を訪ねて(3)

支部員 村中 征也

「名作の舞台を訪ねて」の3回目である。これは、文学・音楽などの分野から50の名作を選び、その舞台を紀行・スケッチする旅の抜粋で、今回は「雪山讃歌」である。

- ①雪よ若よ われらが宿り
俺たち町には 住めないからに
- ②シール外して パイプの煙
輝く尾根に 春風そよぐ
- … … …

山の頂で・山小屋で・キャンプで…
この歌ほど数多く歌われた曲はないであろう。
僕も、支部の登山や会合でよく歌った。

〈歌誕生の秘話〉

1927(昭和2)年1月、西堀榮三郎氏は京都帝国大学山岳部の仲間達と、群馬県の鹿沢温泉に来ていて雪に閉じ込められた。退屈凌ぎに「山岳部の歌」を作ろうと提案、中心になって詞を書いた。曲は皆のお気に入りの「いとしのクレメンタイン」—それがこの歌で、桑原武夫が西堀を作詞者として著作権登録の手続きを取った。この印税によって京大山岳部は財政に困らないと聞く。

ダークダックスが結成前の1950(昭和25)年頃志賀高原のバスで聴いて温め、1958年にレコーディング、翌年の紅白で歌い、この歌の代表的歌い手となった。

西堀はその後、マナスル登山の端緒を開き、1956年派遣の第一次南極観測隊の越冬隊長として活躍した。

〈笹ヶ峰ヒュッテ〉

群馬県の鹿沢温泉には、この歌の歌碑が建つが、この歌が作られたとする場所は他にもあり「本家」を主張、新潟県妙高市の笹ヶ峰もその一つである。

日本山岳会入会同期に、京大出身の興津文雄さんが居り、同期会の登山や集まりで一緒した。彼のお陰で「京都大学笹ヶ峰ヒュッテ」を何回か使わせてもらった。

妙高山塊の麓で豪雪地帯。ヒュッテは、この歌が作られた頃建築されている。西堀も仲間と一緒にスキーを楽しんでおり、此処がこの歌の最適地と僕は思っている。



京大笹ヶ峰ヒュッテ前で

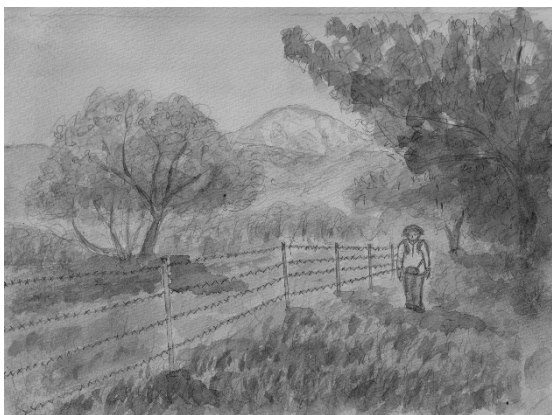
〈笹ヶ峰登頂〉

近隣は、山・牧場・湖・滝・温泉・スキーと景勝地は多いが、笹ヶ峰1,545mに登った人は多くはないと思う。

2015年6月、同期会のメンバー5人がヒュッテに集まった。県道を西に少し行くと北に分岐する土の道があり登り口まで車で行ける。1時間20分の登りであったがきつかった。頂上は木立の中で三角点があった。

帰途は滝を見て、乙見湖畔で遊び、笹ヶ峰牧場を散策した。背後に妙高山・火打山・黒姫山が望め、積雪期の風景を想像した。

食事は、妙高市内のスーパーで買った食材を協力しての調理が楽しかった。また夜は赤倉温泉まで出掛けたのも思い出。ヒュッテに2泊したが、これが最後となった。



笹ヶ峰牧場のスケッチ バックは残雪の火打山

名作の舞台を訪ねて(4)

支部員 村中 征也

「名作の舞台を訪ねて」の追加依頼を頂いたので、4回目として少し北に戻り、岩手県の二編を選びました。このシリーズは、文学・音楽などの分野から50の名作を選び、その舞台を紀行・スケッチする旅で、本に纏めましたーその抜粋です。

最初は岩手県の三陸海岸です。大震災で甚大な被害を受け、14年後にまた大船渡で森林火災の被害を受け、心を痛めています。

僕は震災の翌年2月に交通事故受難で2か月半入院、余計気にかかった土地です。主要舞台が三陸鉄道リアス線ーこれが復興して伸びて行くストーリーに勇気を貰いました。赤と青の線の入った車両が印象的でした。

併せて、盛岡市の渋民を取上げました。

三陸海岸 岩手県久慈市・普代村

《テレビ》あまちゃん

2013年4月～9月

NHK朝ドラNo. 88

主演=能年玲奈(のん)



この朝ドラは、東日本大震災の翌々年で舞台が東北だったので、興味深く視聴された。宮藤官九郎の脚本によるオリジナルで、NHKでの初脚本であった。

音楽は大友良英で、弾けるオープニングテーマは今聞いても、「あ、これだ!」と誰もが思い出すだろう。

物語は2部構成で、主人公の東京の女子高校生・天野アキが、母・春子の故郷三陸海岸沿の「北三陸市」に行き、祖母・夏の後を追って海女を目指すところから始まる。海女は郷里の伊勢志摩で見ているが、若者が目指す姿と、いきなり海に飛び込ませるのに驚いた。

第2部では、アイドルとなるために東京に戻り奮闘する姿が描かれる。母親役の小泉今日子と、憧れ女優役の薬師丸ひろ子との掛合も面白かった。

東日本大震災が「劇内出来事」として扱われ、アキが北三陸に再び戻り、地元のアイドルとして復興に携わる姿が描かれる。

宮藤は、大震災を描くことについて、「フ

ィクションの中に入れることに抵抗もあったが、避けて通れなかった」と語っており、これ無しには深みのある作品にはならなかっただろう。

作中の大切な要素が三陸鉄道(三鉄)で、トンネルを出た列車が、崩壊した橋の手前で急停車する場面は衝撃的であった。また復興の象徴であり、開通した路線が延びて行く様子が人々に勇気を与え、海沿いを走る赤と青の線の入った車両が印象的であった。

北の玄関口の久慈駅が「北三陸駅」、海を見下ろす景勝の堀内ホリナイ駅が「袖が浜駅」として描かれた。



三鉄のスケッチ



久慈駅で

【現地を訪ねて】

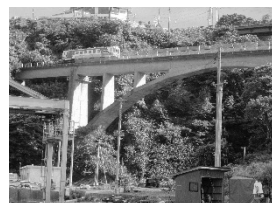
三陸鉄道リアス線は、久慈～大船渡市盛の全長163kmと長大、そこで北部の3分の1で我慢する。

2023年5月30日、盛岡からJR山田線で宮古へ来て、念願の列車に乗る。

久慈まで1時間40分のワンマンカー。山間でトンネルが多いので退屈する。島越駅から漸く右側に海を見るようになり、堀内ホリナイ駅で途中下車する。



駅名標識には「袖が浜」が残されていた。大沢橋梁では海が入らなかったが、列車の通過を撮影出来た。



北上川 岩手県盛岡市

《短歌》 石川啄木

1886年～1912年(明治19～45年)

第一歌集『一握の砂』(明治43)から

やはらかに柳あをめる

北上の岸辺目に見ゆ

泣けとごとくに



三行詩の形態を取り「ややききな」と韻を踏み、一行目で「季節」を、二行目で「場所」を、三行目で「思郷の思い」を詠う構成になっている。しかし直前の歌は、

石をもて進むるごとく

ふるさとを出でしかなしみ

消ゆる時なし

と詠んでおり、単純な望郷の念だけでは片づけられない複雑なものがあったと思われる。

明治31年、12歳で盛岡中学に入学。3年先輩に金田一京助、10年後輩に宮沢賢治が学んでいる。与謝野鉄幹主宰の『明星』を読んで短歌に傾倒するようになる。明34年『岩手日報』に発表、与謝野夫妻を訪問している。「新詩社同人」となり、この頃から「啄木」のペンネームを使用した。

明治37年節子と結婚、明治39年洪民尋常高等小学校の代用教員として勤務し、長女京子が生まれる。明治40年北海道に渡り、代用教員や新聞社の校正係・記者などで生計を立てる。同僚に野口雨情がいる。

明41年から東京に移り、東京朝日新聞の校正係、明治43年朝日歌壇の選者となり、『一握の砂』を出して地位を確立した。与謝野鉄幹・森鷗外・若山牧水等と交流し、金田一の援助を受けている。

幸徳秋水の大逆事件に衝撃を受けて社会主義思想に傾き、生活派の短歌を主張して『悲しき玩具』を出した。

明治45年、肺結核のため26歳の若さで死去、牧水に看取られている。死後の大正2年に『呼子と口笛』が出版された。

【現地を訪ねて】 盛岡市洪民

啄木は偉大な詩人で、当時の天才に多かった短命が惜しまれる。中学の国語の授業で習ったが、教師の熱心な講義が印象に残っている。

北上川は、マヒナスターズの「北上夜曲」が有名にしたが、下流の奥州市でなく、やはり盛岡市内、岩手山を仰ぐ岸辺の風景は見事である。



北上川畔から岩手山を描く

2023年5月30日、盛岡駅から「いわて銀河鉄道」で北に5駅の洪民駅へ。記念館は生憎改修工事で休館中だったが、親切な運転手さんのお陰で、縁の建物・銅像・歌碑等を見ることが出来た。



石川啄木記念館前で



啄木と子供達像



洪民尋常小学校



冒頭の歌碑

インドは16世紀後半のアクバル帝の時代から天文学・数学の学者が活躍している国である。インドは、「ゼロを発見した国」と言われるが、この意味するところは、「零の発見—数学の生い立ち—」(吉田洋一著)、「数学史の小窓」(中村滋著)、「インドの数学—ゼロの発明—」(林隆夫著)等によると、「数としてのゼロを発見した国」ということになる。7世紀(紀元628年)に、数学者・天文学者であるブラーマグプタが、そ

の天文に関する著書「Brahmasphuta Siddhanta」(宇宙の始まり)にも詳述している。天文学の理解には数学の知識を必要とする。何故「零の発見」が数学や天文学に重要な文献を参照されたい。

天文学の身近な例としては、主都ニュー・デリーの中心部の「ジャンタラ・マンタラ(Jantar Mantar)」と呼ばれる天文観測所がある。ニュー・デリー観光の目玉のひとつになっている。1724年にマハラジャ(藩王)のジャイ・シン(Jai Singh)によって建てられた天文台であり、天文研究や暦や時刻設定のための巨大な日時計もある。ジャイプールやウジャインやベナレスにも天文観測所がある。ジャイプール(Jaipur)とベナレス(ヴァーラーナシー(Varanasi)は一般観光地としても知られているが、ウジャイン(Ujjain)を知る人は少ない。ウジャインは、インド中部のマディヤプラデーシュ州西部の都市・ウジャイン県の行政庁所在地である。

残念ながらインド・ヒマラヤに日時計はない。私が2年前にフランス南部にあるニースのフランス日時計の会を訪ねた時、会長のトレンティ



ニュー・デリーのJantra Mantraの巨大な日時計



世界最高所の日時計 →

(チェコ製・水平面日時計・直径6cm・木製)
標高4778m、インド・ラダック地方 Pangong Range、
Merak 峰(6481m)登山開始地点

(Roger Trrenti)さんが登山にも興味を持っておられ、日時計の話から、インド・ヒマラヤに行くのなら、日時計を持参してはと、直径5cmほどの小さな木製の円盤の形をした日時計をプレゼントしてもらった。インド・ヒマラヤに設置するなら、世界最高所の日時計として4000m以上に設置したらということになった。ニースは女優グレースケリーが王妃になったモナコ王国の近くで、海岸線の美しいリゾート地である。

2024年9月、私は日本山岳会東海支部の登山隊の総隊長として中印国境に近いパンゴン山脈のメラック(Merak, 6481m)に向かった。9月29日に登山隊(4600m)のベスキャンプを訪問した。運よく、9月28日の午後には初登頂した星隊長と印藤隊員と3名のインド人が下山してくるので、登山口(4778m)まで迎えにいった。彼

らは、相当疲れていて、3時間ほど待ったが下山してこなかった。私は、左手に持った日時計の写真を撮りベスキャンプキャンプに下山して登頂隊員を待ち、午後遅くに帰着してきた隊員たちも加えて登山隊全員が登頂の乾杯をすることができた。

私が、左手に持った日時計の写真は、帰国後に中日新聞の登山成功記事に載った。フランス日時計の会の会長のトレンティさんに記事の一部をフランス語に訳して送った。この小文はフランス日時計の会の会報に掲載され、世界最高所の日時計として世界中に知られることとなった。

東海支部では、また6000m未踏峰に登山する機会もあろう。その時は、私が持ち帰った日時計を山頂まで持っていき、世界記録を更新してもらいたいものである。

登山用具あれこれ⑮

ブルーサイン

装備委員会委員長 千葉 泰文

1年前位に買ったリュックサック、と言っても登山用品メーカーの通勤用でほぼ毎日使っているザックなのですが、最近よく見たら内側に小さくブルーサインプロダクトのタグが付いているのを発見しました。もっと目立つように大きく表示されても良いのではないかと思う位にさりげなく表示されています。

これは繊維やアパレル業界における持続可能な製品であると認証されたものであることを表しています。ブルーサインは世界で最も厳しい基準と言われています。それまでもこの認証のことは知っていましたが、このマークが実際の商品についているのを見ることは無かったです。自分もわずかながらサステナビリティに貢献していることになるのだという事で少しうれしさを覚えました。

そもそも登山用品は、値段は安くはないかもしれないが、丈夫で長持ちするのが特徴であるとのイメージがあります。次々買い換えるのではなくメンテナンスをしっかりとしながら長い年月使い続けるのが当たり前と思っています。登山を愛する人の多くがこのような性格の人が多くとも思います。最近は軽量化を追求するあまりこのような考えを維持すること自体難しくなってきたのも事実ですが、それでも



長い耐久性能を維持している商品が多いのです。

登山における機能的で使い心地が良いというのは道具として勿論のことながら、環境負荷の少ない状況で作られていて、ロスや廃棄が少ない物でなければならないことが時代に求められるようになってきていると感じます。商品としてもそのような商品で有るべきではないかとも思います。

繊維・アパレル業界は、国際貿易開発会議(UNCTAD)が環境汚染産業の2位に指定されています。良い登山とSDGsを目指して、ブルーサインの認証を受けた商品がもっと多く広まり、良く目にすることが多くなるといいなと感じます。

東海岳人列伝(23)

春の荒島岳に逝った大島 忍を忘れまい

編集委員 西山 秀夫

「記憶の働きというのは不思議です。人は二度死ぬと言います。一度は息を引き取ったとき、二度目はその人のことを記憶する者が居なくなったときです。中略。誰からも忘れられたとき、人は二度死ぬのです」

渡部昇一

死者から見て世の中から忘れられて行くのが一番辛いことである。だからお彼岸やお盆の行事がある。靖国神社や護国神社も戦争で亡くなった人を忘れないためなのだ。山のあちこちにある遭難碑もみることがある。大島さんも列伝に書き留めて忘れないようにしたい。事故の詳細や検証はすでに支部報で掲載された。

大島 忍さんが亡くなったのは2015年4月12日(日)だ。ちょうど10年前である。荒島岳の南を東から西へ流れる荒島谷川の奥だった。前泊で朝早く出発したのだったが荒れた谷で道はないバリルートだったので難航した。すでに11時ごろになっていた。

筆者はこの事故以前に荒島谷川から北へ荒島岳に突き上げる鳴サコを遡行したことがある。地形図を見るまでもなく、等高線がびっしり詰まった険しい谷相だ。落石をすると下まで止まらないので同行の渡辺泰夫さんと付かず離れずで警戒しながら登った。下山は福井工大ルート(廃道)を下った。こんな体験があるので遭難の一報を知った際は鳴サコを登ったのか、と勘違いした。

あそこなら多人数で登れば落石は必然だった。詳細を知るに連れて、充分な調査と下見が無かったことを悔やんだ。この荒島谷川は昔から落石事故の多いところなのだ。この谷は午前中(9時30分)までに通過しないと危険という。4月中旬～6月上旬まで山菜の宝庫なので地元の人も多くの方が命を失っていると言われている。8月中旬まで雪があるから地元に関い合わせて情報を集めたい。

鳴サコの沢登りの際は九頭竜川との合流地点から荒島林道のあるいたが落石だらけだった。以前に福井工大ルートを登った際は下山



猿ヶ馬場山にて 2011年4月

(しもやま)から九頭竜川にかかる橋を渡って前山越しに荒島谷に下った。そして急な尾根に取り付き福井工大ルートを往復した。まぼろしの大垂(おおたる)を見るのがねらいでもあった。

本稿では記憶に残るうちに事故後の思いを短歌に書きとどめて置いた。一首ごとの解説である。

奥越の険しき谷に逝きしとふ

耳を疑ふ突然の報

・・・誰から聞いたかは忘れたが衝撃の一報であった。

また一人親しき人が山に逝く

老親よりも先立つなんて

・・・2015年は1月半ばに支部関係者ら3人が北アルプスの47スキー場から派生する枝尾根で行方不明になった事故の捜索もはじまっていた。これは早大山岳部0Bの後輩によって5月下旬にA沢で発見された。

家に居れば孫抱く爺もあしびきの

山に向かへば死をも恐れず

・・・自宅では孫を可愛がっていたと言う。孫もすでに少年になっていることだろう。

いつも笑み絶やさずにみた良い奴に
再びはなく死に顔を見れば

・・・瀬戸市のお通夜会場に弔問した。雨だったが多数の弔問客であった。その中にどこかで見た顔があった。愛知県行政書士会会長の田宮 章氏だった。同業であることを申出て故人との関係を伺うと南山大学の山岳部のOBとのことだった。

享年は六十六歳好きなだけ
酒を飲んだか山に登ったか

・・・かつて鈴鹿の藤原岳で行方不明の登山者の捜索でも同行した。前夜国道365号のゲート前でテントを張ってビバーク。日本中央分水嶺調査登山でも同行した。鉢盛山の近くの烏帽子岳頂上で雪上にテントを張って笹藪に覆われた分水嶺を歩いた。いつも酒を手放さない人だった。

梅雨のごしのつく雨の尾張野の
東の果に君は還りき

・・・名古屋から瀬戸市へ雨の中を走った。大島さんの無念の涙にも思えた。

矢田川は濁流と化す悲しさに
あふるる涙お通夜なれば

・・・お通夜会場は山口駅附近だったと思うが右岸から見る矢田川は濁流だった。

葬式に行く度に思ふたまきはる
命あるうち好きなことをせよ

・・・登山を愛好するものはいつか死を受け止める時期がある。山でなければ病床にあるかも知れない。動けるうちが花だ。

仕事場の机の上にひと束の
供花置き手を合はすなり（御器所）

・・・大島さんと特に親しくなったのは御器所にあった事務所を知った時だ。ここは後藤商事のビルで友人でもあった故布目治二さんが総務部長でいた。どんなビジネスか忘れたが個人事務所を構えていた。後藤商事さんには大島さんが亡くなったことを告げて、部屋を開錠してもらって供花を捧げさせてもらった。

教訓

地形図を眺めて考えた。東海支部のみならず雪崩で死んだ遭難者はほとんど南面東面ではないか、と気が付いた。徳島和男さんはGWの徳高岳南面の小豆沢で雪の塊を受けて首の骨を骨折。環太平洋一周の偉業を成し遂げた

篠崎純一は2013年5月8日午前8時頃、岐阜県高山市奥飛騨温泉郷神坂の北アルプス奥徳高岳（3190m）の山頂から約500メートル下の白出沢で落石に当たって200mほど滑落し死亡。

2017年3月、栃木県那須町の茶臼岳で発生した雪崩事故では、県立大田原高校の山岳部員7人と教員1人が死亡。これも南斜面で午前8時30分頃から午前8時45分頃までの間に発生。

春の日出は3月下旬で6時40分頃、4月初旬で5時半頃、5月初旬で5時前後に早まる。特に東面、南面は日出と同時に山の高い所から気温が上昇し、凍結でブロックされていた雪、岩、倒木等が落ちる。日出から2時間から3時間で凍結がゆるむ。春は雪が解けて岩の割れ目に浸透し、夜の凍結で膨張すると永い間には割れることがある。山の岩は常に膨張と収縮を繰り返すから割れ目ができる。割れ目に水が浸透するとそこが凍結でついに崩壊もありうる。

夜が明けてからもたついていると牙を剥く。自然のメカニズムに飲み込まれないよう自分を客観視し、春山登山者は特に留意したい。

大島 忍：昭和23年(1948年)7月28日生、
南山大学山岳部OB、2000年東海支部入会、
2003年登山教室委員会委員、
2006年から2011年登山教室委員会副委員長



委員会報告

【山行委員会】

2024年度 支部山行実施状況

| 日程 | | 山城・山名 | リーダー | 参加人数 |
|-----|---------|-----------------|------|------|
| 4月 | 6日 | 鈴鹿山脈 御所平 | 豊田由香 | 4人 |
| | 27日 | 奥三河 三ツ瀬明神山 | 石田伸郎 | 4人 |
| | 28日 | 奥越 鷲鞍岳 | 吉田俊紀 | 5人 |
| | 28日～2日 | 大峰山脈 玉置山、他 | 稲葉真英 | 中止 |
| 5月 | 2日 | 若狭 大谷山 | 鈴木慎吾 | 5人 |
| | 12日 | 伊木山 クライミング | 高橋玲司 | 8人 |
| | 18日 | 鈴鹿山脈 御在所岳・鎌が岳 | 石田伸郎 | 3人 |
| | 26日 | 奥飛騨 天蓋山 | 稲葉真英 | 7人 |
| | 26日 | 若狭 岩籠山 | 吉田俊紀 | 4人 |
| | 31日 | 焼津アルプス 満観峰 | 鈴木慎吾 | 中止 |
| 6月 | 1日 | 愛岐丘陵 鳩吹山、他 | 鬼頭則俊 | 6人 |
| | 8日 | 両白山地 銚子ヶ峰 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 8日～9日 | 天子山地 長者ヶ岳・富士山 | 栗木洋明 | 7人 |
| | 15日～16日 | 奥秩父 瑞牆山 | 稲葉真英 | 8人 |
| | 16日 | 越前 日野山 | 吉田俊紀 | 5人 |
| | 30日 | 奥飛騨 靱糠山 | 千葉泰丈 | 中止 |
| 7月 | 20日～21日 | 白山 御前峰 | 稲葉真英 | 中止 |
| 8月 | 15日～17日 | 北アルプス 雲ノ平 | 稲葉真英 | 中止 |
| | 24日～25日 | 八ヶ岳 赤岳 | 石田伸郎 | 中止 |
| | 31日～1日 | 中央アルプス 将基頭山・木曾駒 | 鬼頭則俊 | 中止 |
| 9月 | 27日～28日 | 中央アルプス 伊那前岳・木曾駒 | 豊田由香 | 中止 |
| | 27日～29日 | 中央アルプス 越百山、他 | 石田伸郎 | 中止 |
| | 28日～29日 | 北アルプス 焼岳 | 稲葉真英 | 6人 |
| 10月 | 6日 | 若狭 西方ヶ岳 | 吉田俊紀 | 5人 |
| | 12日 | 奥飛騨 築谷山 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 12日～14日 | 頸城山塊 火打山・妙高山 | 稲葉真英 | 6人 |
| 11月 | 2日～4日 | 奥秩父 大菩薩嶺・雲取山 | 杉村正博 | 中止 |
| | 3日～4日 | 大峰山脈 稲村ヶ岳・観音峯山 | 豊田由香 | 4人 |
| | 23日 | 鈴鹿山脈 油日岳・三国山 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 23日～24日 | 弓張山地 神石山・尉ヶ峰 | 稲葉真英 | 7人 |
| | 30日 | 奥三河・宇連山・上臈岩 | 鬼頭則俊 | 5人 |
| 12月 | 1日 | 養老山地 笙ヶ岳 | 吉田俊紀 | 4人 |
| | 1日 | 布引山地 経ヶ峰 | 豊田由香 | 4人 |
| | 8日 | 金華山 | 高橋玲司 | 19人 |
| | 15日 | 奥飛騨 福地山 | 稲葉真英 | 中止 |

| | | | | |
|----|---------|--------------|------|-----|
| 1月 | 12日 | 鈴鹿山脈 御在所岳 | 千葉泰丈 | 5人 |
| | 25日 | 南伊勢 姫越山 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 25日 | 霧ヶ峰 車山 | 稲葉真英 | 6人 |
| 2月 | 2日 | 鈴鹿山脈 竜ヶ岳 | 千葉泰丈 | 5人 |
| | 8日～9日 | 南伊勢 便石山 天狗倉山 | 小古真也 | 11人 |
| | 16日 | 奥越 徳平山 | 石田文男 | 10人 |
| | 16日 | 高見山地 三峰山 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 22日 | 木曾山脈 霧訪山 | 鬼頭則俊 | 6人 |
| | 23日～24日 | 北八ヶ岳 縞枯山、他 | 稲葉真英 | 6人 |
| 3月 | 16日 | 渥美半島 大山・雨乞山 | 石田伸郎 | 6人 |
| | 22日 | 奥越 木無山 | 石田文男 | 9人 |
| | 25日 | 西三河 雨山山 | 豊田由香 | 4人 |
| | 29日 | 鈴鹿山脈 高室山・高畑山 | 稲葉真英 | 6人 |
| | 30日 | 各務原台地 八木三山 | 吉田俊紀 | 5人 |

※3月は予定にて記載

山行委員長 稲葉 真英

| | 2024年度 | 2023年度 |
|-------|--------|--------|
| 実施回数 | 38/49回 | 40/61回 |
| 実施率 | 77.6% | 65.6% |
| 総参加人数 | 235人 | 213人 |
| 平均人数 | 6.2人 | 5.3人 |

【ボランティア委員会】

春の2大公式行事が決まり、募集に入っています。まだ、余裕がありますので、是非ご参加ください。詳しくは、前田まで

メール: maedaiq@gmail.com

① SONアスリートとの登山・4月29日(祝)

予備日5月6日(祝)

三河・神石山のピストン(公共交通機関で、JR駅現地集合)

② 春のブラインド登山・5月25日(日)

奥三河・天狗棚から1200高地の周回(金山集合で、福祉バス)

その他にも、揖斐・小島山の登山道整備、試験観察中の少年との登山が控えています。

また、秋には、全国ボランティア支援登山集会の開催を、東海支部主催で行います。

詳細は次号で詳しくご報告できると思いますが、支部あげての行事になると思いますが、その折には、是非、ご協力ください。

ボランティア委員長 前田 隆久

TOPICS 2

東海支部員が編纂した新刊書紹介 『東海周辺の山 ベストコース 80』

本書は山と溪谷社発刊の分県登山ガイドの『愛知県の山』、『三重県の山』、『岐阜県の山』、『静岡県の山』の中から各県20座を選定し再編纂したもの。三重県からは鈴鹿山系も含めて20山、岐阜県、静岡県の山々も含まれている。

西山秀夫さんが中心となって愛知県の山を担当。登山道、アクセス等を再調査、改稿して新たに編集し直している。西山さん以外に志水龍男さん、渡辺泰夫さん、栗木洋明さんが協力している。是非一冊お手元に。山と溪谷社発刊、2024年8月発行、A5判、1870円(税込)(編集委員会)



同好会紹介コーナー

スケッチクラブ

岩田 智与子

《鳳来寺山-紅葉と幽玄を求めて》

11月29日(金)、〈藤が丘-新城市鳳来寺〉の豊鉄高速バスの往復切符を利用し、鳳来寺山にスケッチに行ってきました。

山頂を目指したり表参道の急な石段を下ったり、また本堂界隈でスケッチ場所を探したり、思い思いの場所でスケッチをしました。好天に恵まれ、日に照らされ輝く紅葉を見ることもでき、良いスケッチ旅行でした。

最後に「学びの集い」と称して作品の鑑賞をしました。他の人の良いところを今後の作画の参考にしていきたいと思えます。

帰りのバスの運転手さんの計らいで、太陽に照らされ光っている三河湾の景色を見ることができました。夕日に照らされると海面が黄金色に輝くとのこと。見てみたいものです。
代表:石井 仁 事務局:村中征也・岩田智与子



鳳来寺山東照宮前で

TNCC

浅井 富士子

同好会 TNCC とは Tokaishibu Nice Climbing Club の頭文字で、偉大なアルピニストだった故中世古直子さんが立ち上げ、指導して来られた同好会です。現在8名のメンバーで毎月定例山行を、時々2~3泊の遠出山行も楽しめます。

現在は全員が後期高齢者となり、対象の山はだんだん低くなり、登る高低差は500m程度に下がっていますが、山歩きが大好き、山中にいればご機嫌で、お花、景色、紅葉、雪景色を愛でて山談義を愉しんでいます。

最近の山行は、2月雪の大日岳、3月堂山に登りました。4月は住塚山を予定しています。昨秋には大雪山系にも足を伸ばしました。今年は氷ノ山、高峰高原、秋田駒も計画しています。



2025年3月の堂山(田上山)

TOPICS 3

森の探検隊2024

昨秋の11月9日(土)秋晴れのもと恒例の森の探検隊を催した。ひなご幼稚園(春日井市)の園児15名プラス保護者、教諭合わせて37名の大所帯。これに猿投の森づくりの会のスタッフ14名が対応。

山路川の本丸太橋を渡ったり、輪切りの丸太飛びをしたり、崖をロープに掴まって攀じたり園児にとっては、大冒険。又、6種の木の葉を集めシートに貼り付けるネーチャーゲームや、木どうしを組み合わせて動物の顔や雪だるまの形にしてのペンダント作りにも挑戦。大いに楽しんでもらった。

日頃、自然との触れ合いの乏しい現代の都市市民や児童に森の生態系に接してもらい、豊かな自然観と科学する好奇心を感受してもらおうというのが探検隊の狙いである。(和田 豊司)



丸太飛び

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和7年年7月～9月分)

- <夏山>7月12・13日(土・日)☆☆☆
山名：中央アルプス 宝剣岳・三ノ沢岳
リーダー：池戸 美恵
- <夏山>7月18・19日(金・土)☆☆
山名：両白山地 加賀白山
リーダー：倉橋 智司
- <夏山>7月26・27日(土・日)☆☆
山名：北アルプス 唐松岳
リーダー：村瀬 恭平

- <夏山>8月1・2日(金・土)☆☆☆
山名：木曾駒ヶ岳
リーダー：磯部 隆
- <夏山>8月3～5日(日～火)☆☆
山名：立山三山縦走
リーダー：村瀬 恭平
- <夏山>8月30・31日(土・日)☆
山名：北アルプス 乗鞍・五色ヶ原
リーダー：林 康太郎

- <夏山>9月6～8日(土～月)☆☆
山名：北アルプス 五竜岳
リーダー：近藤 政仁
- <夏山>9月13・14日(土・日)☆
山名：南アルプス前衛 日向山
奥秩父 茅ヶ岳
リーダー：川崎 禎明
- 9月21・22日(日・月)☆☆
山名：西頸城山地 雨飾山
リーダー：村瀬 恭平
- 9月27日(土)☆
山名：三河高原 物見山
リーダー：金谷 正起

<申込み開始>

支部友会員は山行日の**3か月前から、優先は1ヶ月**です。支部会員は山行日の**2か月前**から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。<夏山>は**4月8日「夏山への誘い」**参加者は先行申し込み受付ます。

支部友会員数 令和6年2月末現在／69名

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

- 「予定」第68回 4月8日(火)
テーマ：「2025夏山への誘い」
会場：支部ルーム 19：00～20：30
講師：山行リーダーが夏山コースを説明し参加者は先行申し込み受付ます。
- 「予定」第69回 6月10日(火)
テーマ：「ヨーロッパアルプスの魅力～登山と観光とグルメ～」
会場：東海支部ルーム 19：00～20：30
講師：村中 征也氏(日本山岳会東海支部員)

<山行リーダー連絡先>

- 尾上 昇 FAX：052-832-3878
メール：onoe@onoe.co.jp
- 金谷 正起 携帯：090-9931-3600
メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
- 榊 将美 携帯：090-7237-4410
メール：m.sakaki@minds-consulting.jp
- 村瀬 恭平 携帯：090-4186-9876
メール：hoshizakari@docomo.ne.jp
- 田中 進 携帯：090-9191-8666
メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp
- 今津 英一朗 携帯：090-2616-7549
メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
- 磯部 隆 携帯：090-9180-7245
メール：takass@yk.commufa.jp
- 高松 信治 携帯：090-3156-5268
メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp
- 近藤 政仁 携帯：090-2183-8125
メール：vft55ud55@gmail.com
- 倉橋 智司 携帯：090-8673-7180
メール：ilyt6by8@qc.commufa.jp
- 池戸 美恵 携帯：090-1294-0415
メール：noboruonna@icloud.com
- 川崎 禎明 携帯：090-2131-7695
メール：y.kawa715@gmail.com
- 林 康太郎 携帯：090-2949-0544
メール：koutaropippi@gmail.com

INFORMATION

愛知県赤十字献血センターで展示 — 山の写真とエベレスト頂上の石 —

愛知県赤十字献血センター 献血ルーム（JRゲートタワー26階）の待合室の展示コーナーで、東海支部の企画による「山の写真とエベレスト頂上の石」展が予定されている。期間は、本年5月2日～29日まで。

これは、昨年引き続き、献血センターの要請によるもので、ちなみに昨年は、「登山道具の今と昔」を展示した。

今年は、山の写真は、先般の「東海岳人写真展」からと、エベレストの頂上の石は、エベレストの頂に立った元支部員の鈴木清彦さんと同じく石川富安さんの持ち帰ったものが展示される。

支部員・支部友各位におかれては、名古屋駅方面へ出掛ける機会があった折には、是非、献血センターの展示コーナーを覗いてやって欲しい。日頃社会貢献とほとんど縁のないあなた。ついでに献血でもされたら如何。（編集委員会）



エベレスト頂上の石（上の2ヶ）

INFORMATION

第11回夏山フェスタのお知らせ 中部地区最大級の山岳関連総合イベント

2025年5月17日（土）・18日（日）
ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
7階・8階 展示場

- 1、会場に登山用品メーカーや自治体等が出展。
- 2、山小屋相談コーナーが充実、中部地区の有名小屋が集結。
- 3、登山や山岳写真の相談コーナー開設。
- 4、有名登山家達のセミナートークショー実施。
*連続テレビ小説「おしん」で国民的な子役となった小林綾子さんのトークショーが実施予定されている。
- 5、JAC 東海支部・支部友会ブースを開設。
併せて新入会員募集をする。



例年の会場風景

支部員各位におかれては、ご家族、ご友人をお誘いいただき是非のご来場をお願いしたい。

*詳細は別途ホームページ及び同封のチラシ参照のこと。（編集委員会）

会 務 報 告

【2025年1月常務委員会】

日時：1月23日(木)19:00~22:00

1. 支部長挨拶 (高橋)

・新年会、盛大だった。松田宏也氏のミニヤコンカの講演は若い人たちの参考になる。

2. 総務委員会 (今津)

・2名入会手続き中。
・新HPについて、現在まで、HPコンテンツを作成した。今後支部員説明、移行を予定している。SNS上での検索HITを意識した構成にするなかで、支部として伝統山行の重みを失わない形にした。

・5/30~6/1 ウェストン祭
・新年会会計報告、手ぬぐい、書籍販売、カンパで赤字を補填。

3. AMSCA (旧愛知県山岳連盟) (星、齋藤)

・アジア大会、スポーツクライミングのボランティアを募集。
・雪山研修(2/15~16)希望者は学連のメンバーになれば参加できるので2/9までに齋藤絵美子さんに申込みをする。周知はメルマガ。

4. 支部事業委員会 (高橋、前田)

・2025年度、【特別事業補助金】募集について。公益事業に補助金が出る。東海支部のボランティア委員会は視覚障がい者の登山など活発に実施しているので全国ボランティア登山情報交換会について申請してはどうか。

5. 支部友委員会 (金谷)

・問題なく山行実施。

6. 山行委員会 (稲葉)

・来年度、現リーダー、新規リーダーを引き受けてもらえるか確認中。

7. 猿投の森づくり (和田)

・2/22(土)わいがや講座、危険作業が多いので救命講習おこなう。講師、瀬戸消防員。

8. トレッキングクラブ

・2/1(土)入道ヶ岳、3/29(土)神石山

9. 東海支部報 (星)

・181号、4/1発行予定。
・新年度の裏表紙欄の広告募集中。

10. アルパインクラブ (高橋)

・2名で槍ヶ岳撤退。
・一般向けのクライミング体験の講習を企画していく。登山基礎を習得するためのアルパインライトを作る。

・草野さん、2/1出発予定で日本海から南下する樺海新道を40日間で挑戦。

11. 東海学生山岳連盟 (山下)

・1/12 藤原岳アイゼン装着に時間がかかった。
・2025年のゴザフェス、9月27(土)、28(日)
・2/17 冬山、行先未定、リーダー内倉。計画書は早めに作る。

12. 登山学校 (服田)・順調に実施。

13. 支部事業委員会 (服田)

・4月12日(土)13日(日)、日本山岳会 支部事業委員会主催の指導者育成講習会。支部山行、登山教室のリーダーを目指す者に東海支部から4人まで助成金を出す。

14. 自然保護委員会 (石原)

・猟師さんとの交流会1/23、7名参加。
・新年度の計画、夏に中央アルプスの雷鳥増殖プロジェクトの現場を訪れたい。

15. ボランティア委員会 (前田)

・4/19(土)4/20(日)小島山登山&登山道整備を委員会行事として協力する。
・第二回全国ボランティア登山情報交換会を開催。

16. 写真展実行委員会 (欠席)

・2/24~3/2 写真展、支部コーナーに展示希望者は2/3までに岩月氏に連絡する。

17. 技術向上委員会 (清水)

・3月29日(土)~30日(日)米山悟氏による雪上訓練【イグルー講習会】参加費2,000円くらい。HP、メルマガでお知らせ。

出席：高橋、今津、服田、前田、高松、石原、星、大槻、奥山、山下

(ZOOM) 金谷、稲葉、清水、和田、齋藤絵美子

【2025年2月常務委員会】

日時：2月26日(水)19:00~20:30

1. 支部長挨拶 (高橋)

・昨日から写真展がはじまり、盛況に実施されている。力作で迫力の写真ばかりですので、皆さんも足を運んでください。

2. 総務委員会 (今津)

・入退会 (入会)3名手続き中 (退会)5名
・総会5月11日(日)15:30~16:00

・総会后予定 草野駿希氏の報告予定 平川理事の講演「低体温症について」

・デジタルメディア委員会引継ぎ：総会で新ホームページの説明。

・令和6年度組織図について、各グループおよび委員会の相談窓口不明などがあり、グループ再編および担当など要望を支部長、副支部長へ個別に提出する。

・総務委員長より常務委員会メンバーへメールして、要望など返答していただく。

・各委員会で、GoogleWorkspaceの利用をお願いします。

・各委員会において、デジタル実務に精通した人の参加を進めていただきたい。

3. 支部友委員会（金谷）

・1月、2月の山行は問題なく進んでいる。

・夏山山行計画について、2月、3月で審議する。

・6月10日支部友ミーティングで、「ヨーロッパの魅力」紹介。講師は村中氏。

4. 山行委員会（代理 伊藤）

・従来、キャンセル料は計画書発送～：30%、7日前～：50%であったが、来年度より3日前から100%を加えたいと説明。山行規約があるため、変更するには要望書を提出して常務委員会にて後日審議することとなった。

5. 猿投の森づくりの会（和田）

・わいがや講座20名参加、救急講習を実施。

6. トレッキングクラブ（服田）

・山行は資料の通りで、3か月に1回委員会を3月2日（日）実施。

7. 東海支部報（星）

・原稿締切日2月末ですので、まだ未提出委員会の方は提出をお願いします。

・常務委員会のメンバーは知り合いなどへ、広告依頼をお願いします。

・仮題インド・ヒマラヤの再改訂版、英語版の日本山岳会東海支部記名について、承認された。

・同改訂版について、本部に120周年記念として出版のお願い打診について承認された。

9. アルパインクラブ（高橋）

・現在は、3つのカテゴリー（上・中・下各グループ）。

・新たなカテゴリー作り検討（学校卒業者や支部友員の受け皿的な）3月中に具現化予定。

10. 東海学生山岳連盟（山下）

・2月17日 雪山の蓼科山へ山行実施。

・事前にミーティングができ、装備などのトラブルはなかった。

・3月に山下さんから諸岡さんへ引き継がれる。

11. 登山教室（服田）

・2月山行は、例年になく雪が多く充実した山

行、ただ一部の山行は雪が多すぎて中止。

・3月山行は、資料の通り。2月と同様に積雪が期待できると思っている。

・ジャパンレンタカーとのビジネス（法人）契約について、先方店舗で周知不足あり、一時利用を控えてください。学校で再確認して、再度利用について連絡する。

・次年度の運営体制、Aクラス3クラスで7月5日（土）開校、Aクラスの中にA+設け。

・受講料を12,000円から15,000円に値上げ。

・机上講習3月1日（土）「山の天気講座」講師料承認された。

12. 自然保護委員会（石原）

・1月23日 猟師さんとの交流を実施。

・3月6日 女性ハンター清水潤子さんと現地のワナ猟現場視察や獣害などについて話を聞く会を開く。

・中央アルプス駒ヶ岳のニホンライチョウ保護増殖活動について、中部大学の牛田一成教授からボランティア活動の要請があり2月18日話を聞いた。

12. ボランティア委員会（前田）

・全国ボランティア支援登山集会について、支部特別事業補助金を本部に申請することを正副支部長会議で承認され今月中に申請します。支部行事で11月15日、16日実施。

・高橋支部長の地元の方とかボーイスカウトと進めていた4月19日、20日で実施の小島山登山道整備活動に、ボランティア委員会も協力事業として参加する。

13. 遭難対策委員会（欠席）

・その他資料の通り

・高橋支部長より、遭難時対応体制づくりの事務局は遭難委員会として、実施体制は正副委員長で決めるとの考え、今後ご意見を出してほしい。

14. 写真展実行委員会（岩月）

・第19回写真展開催中2月25日150名、26日178名の来場、ますますの来場者数。

・中日新聞の取材あり、明日以降の新聞へ掲載される予定。

・3月22日（土）写真山行を鳩吹山で実施。

15. 技術向上委員会（清水）

・イグルー講習会について、3月29日～30日乗鞍スキー場、講師米山氏。

出席：高橋 今津 金谷 鈴木 和田 服田 星 山下 石原 前田 岩月 清水

ル ー ム 日 誌

— . . — 1 2 月 —

- 大会議室 /小会議
- 1 (日) トレッキングクラブ
 - 2 (月) 支部友委員会
 - 3 (火) 県岳連
 - 4 (水) アルパインクラブ(青年部)
 - 5 (木) 写真展実行委員会
 - 9 (月) 登山学校運営委員会
 - 10(火) 支部友ミーティング
 - 11(水) 山行委員会
 - 12(木) 自然保護委員会
 - 13(金) 猿投の森づくり自然観察会
 - 16(月) 図書委員会・読図会 /TNCC
 - 17(火) ボランティア委員会
 - 18(水) 東学連 /技術向上委員会
 - 19(木) 正副支部長会議/総務委員会
 - 23(月) /支部友読図会
 - 24(火) 遭難対策委員会
 - 25(水) 常務委員会
 - 26(木) 総務委員会 (合同)

— . . — 1 月 —

- 1 (水) アルパインクラブ(青年部)
- 6 (月) 支部友委員会
- 7 (火) 県岳連
- 8 (水) 山行委員会
- 9 (木) 自然保護委員会
- 10(金) 写真展実行委員会
- 14(火) 登山学校運営委員会
- 15(水) 東学連 /技術向上委員会
- 16(木) 正副支部長会議/総務委員会

- 19(日) 新年会
- 20(月) 図書委員会・読図会 /TNCC
- 21(火) ボランティア委員会
- 22(水) 常務委員会
- 24(金) 亀の会
- 27(月) 支部友読図会
- 28(火) 遭難対策委員会

— . . — 2 月 —

- 3 (月) 支部友委員会
- 4 (火) 県岳連
- 5 (水) アルパインクラブ(青年部)
- 6 (木) 写真展実行委員会
- 10(月) 登山学校運営委員会
- 12(水) 山行委員会
- 13(木) 自然保護委員会
- 17(月) 図書委員会・読図会 /TNCC
- 18(火) ボランティア委員会
- 19(水) 東学連 /技術向上委員会
- 20(木) 正副支部長会議/総務委員会
- 24(月) /支部友読図会
- 25(火) 遭難対策委員会
- 26(水) 常務委員会
- 27(木) 総務委員会 (合同)

会員異動

- 入会：**戸ノ岡京介(17416) 綾野誠紀(手続中)
綾野眞理(手続中) 芝山美智子(手続中)
山田 卓(手続中) 稲葉華子(手続中)
- 退会：**澤田恵理(15756) 桜井恵美子(16024)
川瀬眞知子(15110) 園田さえ子(15287)
伊藤純一(15065) 川野民子(15266)
飯島実千代(15545)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

〈支部総会のお知らせ〉

令和7年東海支部総会は以下のように開催します。ご予約ください。

日 時：5月11日(日) 午後、総会及び懇親会
(時間は、後日連絡します)

場 所：OMCビル4階講堂

内 容：報告会(草野駿希氏)
講演会(平川陽一郎 日本山岳会理事)を予定

※ 4月中旬に、総会資料および出欠ハガキ
(委任状含む)を送いたします。
総務委員長 今津英一朗

編集後記

インドの登山事情については、最近自然環境保護の動きが目立つ。日本でも人気のあるストック・カンリ峰はレーの州政府の決定で2020年より登山禁止となっている。理由は近年の登山客が増えたことによって激増しているごみの問題や、水の汚染など環境への対策とのことである。

振り返って、日本の山の環境保護はいかがか。自然を守るには、登山禁止という厳しい対応を行う必要がある山は多いのでは。登山道整備の遅れ、大切な山の水源保護、動植物の保護など、現状を理解することから始めたい。

支部報編集委員会 星 一男

SINCE 1975
mont-bell

地球と遊ぶ、時間をつくろう



登山用品は、お近くの「モンベルストア」へ!

名古屋栄店 052-228-1840

豊橋店 0532-21-8650

長久手店 0561-64-2605

ららぽーと名古屋みなとアクルス店 052-659-2708

最新情報は
こちらから



株式会社 **モンベル** www.montbell.jp

法務相談は行政書士にお任せください!

相続

会計

許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有)富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有) **アジマプリント**

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地
TEL(052) 901-1256
FAX(052) 901-2278
E-mail: ajimaprint@giga.ocn.ne.jp